

背景・目的

近年、学校のトイレについては、より良い環境整備が求められており、本市においても令和5年度までに枚方市立小中学校の校舎における洋式化・ドライ化・ユニバーサル化の整備完了に向け取り組んでいます。その後の取り組みとして、令和6年度以降の整備内容等を検証するために、学校のトイレを主に使用している児童・生徒・教職員・保護者を対象としたアンケート調査を実施しました。その結果、学校のトイレならではのさまざまな課題に対する配慮が必要であることがわかりました。児童生徒にとって校舎内のトイレは、顔見知りの友達や先生（特定多数）と一緒に使用する場所です。一方、その他の施設（商業施設など）のトイレについては、基本的には顔見知りでない人（不特定多数）と一緒に使用する場所です。この様に校舎内のトイレは、いつ誰がどのトイレに入ったかを容易に知り得ることが出来る環境となっていることが課題の一因となっています。この度、校舎内のトイレにおけるからかいかや多様化する人権課題、更には避難施設としてのトイレとして、より多くの児童生徒等がよりストレスなくトイレを使用できることを目的として「学校のトイレ整備における基本的な考え方」を策定しました。なお、この考え方は、「枚方市学校整備計画」に基づいて実施していくものであり、社会情勢やニーズの変化に伴い適宜見直しを行うこととします。

主なアンケート調査結果

児童	●いつも一人で行く、一人で行くことが多い	62.5%
児童	●大便をガマンする	29.5%
生徒	●学校の洋式便器で小便是座ってする	62.4%
生徒	●学校で小便をするとき洋式トイレを使う（男子トイレを使用する方のみ）	17.0%
教職員	●排便をガマンすることによる健康障害が見受けられる	19.0%
	●トイレにまつわるいたずらやからかひが見受けられる	38.6%
	●子ども達が学校でガマンせず安心してトイレをするためにはどのような教育が必要？	
	◆トイレの使い方マナー教育	69.2%
	◆排泄することの大切さ、恥ずかしいことではないという教育	68.7%
保護者	●子どもが学校のトイレをガマンすることで健康被害につながっていると感じる	62.6%
	●子どもから学校のトイレについての悩み事を聞く	29.5%
	●学校で小便をするとき洋式トイレを使う（男子トイレを使用する方のみ）	14.0%

廊下からトイレに入る扉について？

●児童生徒	あったほうがよい	46%	理由：中が見えずプライバシーを守れるから	77.8%
●教職員	ないほうがよい	50%	理由：いたずらやからかひにすぐ気づけるから	89.5%

子ども達が安心して使用できるトイレ？

	大便器+小便器	小便器間に仕切り付き	個室化（小便器なし）
児童生徒	31%	32%	15%
教職員	14%	55%	22%
保護者	7%	39%	41%

男子トイレで小便器がない個室化のトイレについて？

	とてもよい、よい	とてもよくない、よくない	どちらともいえない	わからない
児童生徒	37.8%	22.9%	29.8%	9.5%
教職員	47.1%	18.4%	29.9%	4.6%
保護者	59.8%	10.6%	23.8%	5.8%

男子トイレの個室化に肯定的な意見が多い一方で否定的またはどちらともいえない意見も一定数ある。また、実態として男子トイレにおける小便時に洋式トイレを使う人が少数派となっている。これらのことから、「いろんな人がいて、いろんなトイレがある」という偏見を持たない人権教育を進めるとともに多様なトイレ整備を進める必要がある。

**基本方針** - SDGsの理念に基づいたトイレ環境整備 -  
校舎内のトイレにおけるからかいかや多様化する人権課題、更には避難施設としてのトイレとして、より多くの児童生徒等がよりストレスなくトイレを使用できることを目的として、「インクルーシブ化・ユニバーサル化」「バリアフリートイレ」「避難所としてのトイレ」に関する考え方を大切にSDGsの理念に基づいたトイレ環境を整備していきます。

1. インクルーシブ化・ユニバーサル化
2. バリアフリートイレ
3. 避難施設としてのトイレ

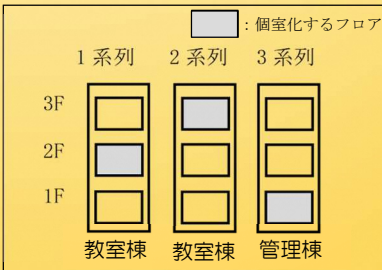
基本方針を実現するための取り組み

### 1. インクルーシブ化・ユニバーサル化

●**主な課題**



課題	事例
トイレにまつわるからかひ等	・大便をすることによるからかひ ・いつも個室に入ることによるからかひ
大便をガマンすること	・恥ずかしいから、臭いが残って気になるから ・トイレが汚くて臭いから
トイレにまつわる「いたずら」	・故意的な破損 ・異物を流して詰まらせる
トイレの汚れ	・汚してもそのまま ・掃除をしてもきれいにならない

●**課題に対する配慮（整備内容）**  
トイレにまつわるからかひ等に対する配慮  
(からかひ等を受けている人やトランスジェンダーの方へ)  
男子トイレについては、原則各系列で1フロア個室化とする。その他は小便器を設置することで多様なトイレ整備をする。(個室化とするフロアは各学校と協議の上決定)



全個室化した男子トイレ

●**課題に対する配慮（整備内容）**  
大便をガマンすること、からかひやいたずら、汚れに対する配慮  
(ソフト)  
◆トイレの使い方マナー教育  
◆排泄することの大切さ、恥ずかしいことではないという教育  
◆トイレでのバリアフリーや多様な性についての教育  
(ハード)  
◆小便器間に仕切りを付ける  
◆汚れが付きにくく、清掃性のよい建材・設備を採用  
◆感染防止対策：トイレを使用して最後に触れる場所は手洗い後の蛇口です。自動水栓とすることで、きれいに洗った手で蛇口に触れることがなくなります。

### 2. バリアフリートイレ

●**主な課題**  
車いす使用者、オストメイト、妊婦、男女トイレの使用に抵抗感のある性的マイノリティの方たちなど、バリアフリートイレを本当に必要としている人たちがいます。使用者が集中してしまうと、必要とする人たちが使いたいときに使えなくなってしまいます。

バリアフリートイレと呼ばれるようになった経緯

年代	主な名称	目的
1994年	障害者トイレ 車椅子専用トイレ	高齢者や障害のある方が外出先でも安心して使えるトイレ
2000年	多目的トイレ 多機能トイレ	使用者を限定せず誰もが使えるトイレ
2021年	バリアフリートイレ	多目的トイレに使用者が集中したため、本当に必要としている人が円滑に使用できるトイレ

●**課題に対する配慮（整備内容）**  
車いす使用者や介助が必要な方々にとって十分なスペースを確保した上で、温水洗浄便座付き洋式トイレ、非常時の呼出ボタン、車いすに乗ったままでも快適に使用できる洗面台等を設置したバリアフリートイレを各階に整備する。

### 3. 避難施設としてのトイレ

●**主な課題** (出典：内閣府「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」)  
・和式トイレ：足腰の弱い高齢者等や車いすでは使用が非常に困難、不衛生  
・災害時に必要なトイレの個数の確保



和式トイレはJIS規格から除外された

●**課題に対する配慮（整備内容）**  
基本方針1・2に準じて洋式トイレとバリアフリートイレを継続的に整備する  
(洋式トイレのメリット) (バリアフリートイレ)

- 床面の汚れが少なく、大腸菌の発生及び拡散のリスクが低い
- 断水時でもバケツ一杯の水で容易に流せる
- 配管破損時で水を流すことが出来ない場合でも、衛生的かつ容易に便袋の装着と回収ができる
- 災害時用トイレとしてカウントできる



### 学校のトイレに関する教育

**人権教育**  
・あらゆる教育活動において、性的マイノリティへの理解を深めるための学習等の人権教育を推進する。  
・様々な人権教育教材を活用し、自分や相手、一人一人を尊重する態度を身に付ける。  
・「DV予防教育プログラム」を活用し、ジェンダー平等教育に取り組む。  
・障害者理解教育の中で多目的トイレの機能等を知る機会をもつ。

**道徳教育**  
「特別の教科 道徳」の時間を軸に、学校教育活動全体を通して、学習指導要領の内容項目「主として集団や社会との関わりに関すること」の学習の充実を図り、児童・生徒の公共心や公德心、奉仕の精神などを養う。